

※公募の詳細については、公募機関(AMED)のwebサイトで必ず確認してください。(H28.11.08現在)

【H29年度日本医療研究開発機構(AMED)研究費】

【公募締め切り・事業紹介リンク先】

認知症研究開発事業	研究推進課学術調整係への提出期限 平成28年12月6日(火) (AMEDの期限は平成28年12月13日(火)正午【厳守】) ○提出方法:e-Rad(機関承認要)
http://www.amed.go.jp/koubo/010420161107.html	※希望者には、先端科学・イノベーション推進機構(O-FSI)による提案書アドバイス等を行いますので、O-FSI(fsojimu@adm.kanazawa-u.ac.jp)へ相談ください。

【公募課題概要】

	研究費(年間) (間接経費を含む)	研究期間	採択件数	公募する研究内容、求められる成果等
認知症研究開発事業				
1. 認知症の行動心理症状(BPSD)の包括的な治療指針の作成に関する研究	20,000 千円程度	最長3年	0~2 課題程度	<p>【目標】 認知症の介護負担の主要因ともいえる行動心理症状(BPSD)に対する治療やケアは喫緊の課題と考えられる。BPSDに対する薬物治療は、実臨床で多く行われている一方で、薬物治療以外のかかわり等も重要である。しかし、薬物治療やかかわり等を含めた包括的な治療指針は未だ確立されていない。本公募では、多岐にわたるBPSDに関して、包括的な治療指針の作成を目標とする。</p> <p>【求められる成果】 多岐にわたるBPSDに関して、薬物治療、非薬物治療あるいは、どのようなかかわり方が適切かを明らかにするなど、実臨床に即した包括的治療指針を作成することが望ましい。</p>
2. 認知症と精神・神経疾患の鑑別診断に関する簡易診断支援システム等の開発	30,000 千円程度	最長3年	0~3課題程度	<p>【目標】 認知症と高齢者うつ病等の精神・神経疾患の鑑別診断は、その後の治療方針を決定する上で極めて重要である。しかし、CTやMRI、SPECT等の検査設備が十分整っていない医療機関では、鑑別診断が困難である。医療設備が十分整っていない医療機関においても使用可能な、鑑別診断の補助となる簡易診断支援システム等の開発を目標とする。</p> <p>【求められる成果】 医療設備が十分整っていない医療機関においても、認知症と精神・神経疾患を簡便に鑑別できるような仕組み作りの構築。</p>
3. 若年性認知症の実態把握とレジストリに資する多元的なデータの共有化・効率化を行うための研究	20,000 千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p>【目標】 若年性認知症は本人のみならず、家族等の負担が大きく、社会的問題となっているが、その実態は正確に把握されていない。実態調査をふまえた上で、若年性認知症レジストリを構築することを目指す。得られたデータが将来的に他の認知症レジストリに組み入れられるような仕組み作りを目標とする。</p> <p>【求められる成果】 若年性認知症の実態を調査する。将来的に既存の認知症レジストリに組み入れることを想定した若年性認知症のレジストリシステムを構築する。</p>